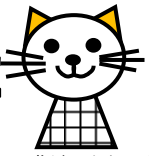


日本脳炎予防接種説明書



日本脳炎は、日本脳炎ウイルスの感染によっておこる中枢神経の疾患です。ヒトからヒトへの感染はなく、ブタなどの動物の体内でウイルスが増殖した後、そのブタを刺したコガタアカイエカ（水田等に発生する蚊の一種）などがヒトを刺すことによって感染します。東アジア・南アジアにかけて広く分布する病気です。

症状が現れずに経過する（不顕性感染）場合がほとんどですが、症状が出る場合には、6～16日間の潜伏期間の後に、数日間の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、引き続き急激に、光への過敏症、意識障がい（意識がなくなること）、けいれん等の中枢神経障がい（脳の障がい）を生じます。脳炎を発症した場合20～40%が死亡に至る病気といわれています。

1. 接種方法について

接種方法は皮下接種です。全4回の接種となります。

対象年齢・接種間隔			接種回数
1期	初回	生後6か月以上90か月（7歳6か月）未満の間に、6日（1週間）から28日（4週間）未満の間隔をあけて2回接種を受ける。（標準的接種年齢：3歳）	2回
	追加	生後6か月以上90か月（7歳6か月）未満の間に、1期初回終了後、6か月以上、標準としておおむね1年後に1回接種を受ける。（標準的接種年齢：4歳）	1回
2期	9歳以上13歳未満の間に1回接種を受ける。（標準的接種年齢：9歳）		1回
特例措置①	<u>平成7年4月2日から平成19年4月1日までに生まれた人</u> で、かつ全4回の接種を終えていない場合は、20歳未満の間に、残りの接種回数を受ける。接種間隔については、上記のとおり。なお、2期の接種については、1期終了後少なくとも1週間以上、可能であれば5年程度の間隔をあけて受けるのが望ましいとされています。		残りの接種回数
特例措置②	<u>平成19年4月2日から平成21年10月1日までに生まれた人</u> で、かつ1期3回の接種を終えていない場合は、9歳以上13歳未満の間に、残りの接種を受ける。		
[注意] 特例措置は、平成17年度から平成21年度にかけての日本脳炎の積極的勧奨（接種のおすすめ）の差し控えにより、接種機会を逸してしまった人のみを対象にしたものです。			

2. 副反応について

日本脳炎ワクチンには「ジェービックV®」と「エンセバック®」の二種類がありますが、接種間隔・効果・効能はいずれも同じです。副反応については以下のとおりです。

	ジェービックV®	エンセバック®
頻度 5%以上	注射部位の紅斑。せき、鼻みず、発熱	注射部位の紅斑、腫れ。せき、鼻みず。皮膚の発疹。発熱
頻度 0.1～5% 未満	注射部位の腫れ、疼痛、かゆみ、発疹、じんましん、内出血、出血。喉頭紅斑、咽喉疼痛、嘔吐、下痢、食欲不振。皮膚の発疹、じんましん	注射部位の内出血、しこり、疼痛、かゆみ。頭痛、気分変化。発声障がい、鼻出血、鼻閉、咽喉頭疼痛、くしゃみ、喘鳴、咽頭紅斑。腹痛、下痢、嘔吐、食欲不振。皮膚の紅斑、かゆみ、じんましん。異常感
頻度不明	接種部位のしこり。頭痛、血管迷走神経反応、腹痛、吐き気。皮膚の赤斑、かゆみ、倦怠感、悪寒、関節痛	失神・血管迷走神経反応、吐き気、倦怠感
右のような症状が疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。	重い副反応として、まれに、 1) ショック、アナフィラキシー（血管浮腫・じんましん・呼吸困難など） 2) 急性散在性脳脊髄炎（発熱、頭痛、けいれん、運動障がい、意識障がいなど） 3) けいれん 4) 血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜出血など） 5) 脳炎・脳症（発熱、四肢麻痺、けいれん、意識障がいなど） があらわれることがあります。接種から2週間は子どもの体調を観察し、腫れが目立つときや体調や機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。 ※ 急性散在性脳脊髄炎（ADEM）…ワクチン接種後にまれに発生するアレルギー性の脳神経の病気、接種後数日から2週間程度で発熱、頭痛、けいれん、運動障がいなどの症状があらわれます。治療により完全に回復する例が多く、良性的病気とされていますが、運動障がいなど神経系の後遺症が10%程度の方に残るといわれています。	

裏面もご覧ください

3. 予防接種健康被害救済制度について

万が一、日本脳炎予防接種による重篤な健康被害が発生し、被害者からの健康被害救済に関する給付申請について、厚生労働省が因果関係を認定した場合、国の定める医療費、医療手当等の給付を受けることができます。



予防接種を受ける前にお読みください



予防接種は、感染症にかかることを防いだり、かかった時の症状を軽減したり、病気がまん延することを防ぐために行なわれます。
 赤ちゃんがおなかの中にいる間におかあさんからもらった免疫力（病気から体を守る力）は、生後数か月から1年くらいで自然に失われていきます。そのため、その後は子ども自身で免疫をつくって病気を予防する必要があります。その助けとなるのが予防接種です。
 予防接種を受ける前には、予防接種の特徴や有効性、副反応などをきちんと理解することが大切です。予防接種を記入する前に、この説明書をお読みの上、不明な点などは接種前に医師に相談しましょう。

☆ 予防接種のきほん ☆

1. 予防接種を受けることができないのはどんなとき？

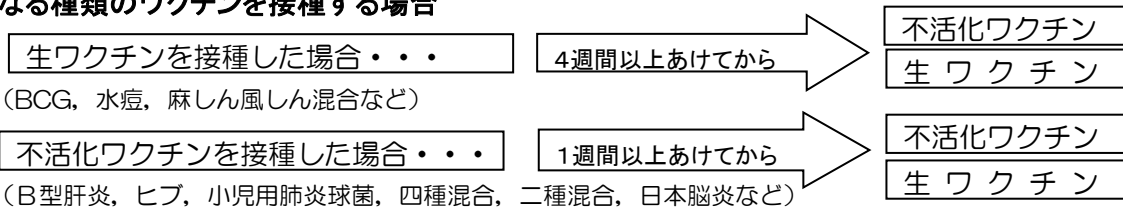
予防接種は、体調の良いときに受けるのが原則です。下記のいずれかにあてはまる場合は接種できません。

- 1) 明らかに熱がある（一般的には37.5℃以上）
- 2) ひどい下痢をしている
- 3) 重い急性の病気にかかっている
- 4) その日に受けるワクチン、またはワクチンに含まれている成分でアナフィラキシーショックを起こしたことがある（アナフィラキシーショックとは接種後30分以内に蕁麻疹などの皮膚症状や、腹痛や嘔吐などの消化器症状、そして息苦しさなどの呼吸器症状を呈します。）
- 5) BCG接種の場合、予防接種や外傷などによるケロイドが認められる
- 6) BCG接種の場合、結核にかかったことがある
- 7) 水痘予防接種の場合、水痘にかかったことがある。
- 8) 麻しん（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）、などの感染症にかかり治ってから4週間以上経っていない場合や突発性発疹、手足口病などにかかり治ってから2週間以上経っていない場合
- 9) 子宮頸がん予防接種対象者の女性で、妊娠している又はその可能性がある場合
- 10) その他、医師の判断で不適当と判断された場合

2. 予防接種の間隔について

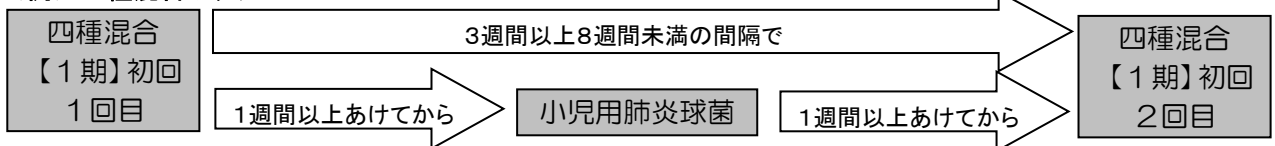
予防接種を受けてから次の予防接種を受けるまでに一定の期間が必要になります。接種したワクチンの種類によってその間隔が異なりますのでご注意ください。

1) 異なる種類のワクチンを接種する場合



2) 同じワクチンを複数回接種する間に、別のワクチンを受ける場合

<例> 四種混合ワクチン

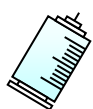


※ B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合、水痘、日本脳炎などは同じ種類のワクチンを複数回接種します。確実な免疫をつけるために、決められた接種間隔で受けましょう。

3. 予防接種後の過ごし方

接種後に副反応がでることがありますので、下記の点に気をつけましょう。

- 1) 接種後30分くらいは接種した医療機関で子どもの様子を観察するか、かかりつけの医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。急な副反応はこの間に起こることがあります。
- 2) 接種した日は、普段どおりの生活でかまいません。ただし、はげしい運動は避けましょう。
- 3) 接種した日の入浴はかまいませんが、接種部位を強くこするのは避けましょう。
- 4) 生ワクチン（BCG、水痘、麻しん風しん混合など）は接種後4週間、不活化ワクチン（B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合、二種混合、日本脳炎など）は接種後1週間、副反応の出現に注意しましょう。
- 5) 予防接種後に接種部位のひどい腫れ、高熱や麻痺などの重篤な症状が現れた場合、医師の診察を受けた後に保健所保健予防課（Tel.626-1114）までご連絡ください。



本日受ける予防接種の特徴や副反応などは、表面に記載されています。
 接種を受ける前に必ずお読みください。

